

# 健康と光線

## 日射病と熱射病はどう違う

日射病は直接日光により脳温が上昇した場合に発生する、とされているため、サナモアを直接頭部にかけても良いか、と心配する人もいますが、学理的にも経験的にも日射病になることはありませぬ。日射病や熱射病を含む暑熱障害は猛暑の夏に多発し、熱中症と総称されていますが、原因は高温多湿環境下での過度の筋運動などにより生じた体内の産熱量が発汗などによる体外への放熱を上回って全身性のうつ熱状態を起し、そのため体温を調節することができなくなり、体温が高度に上昇(40℃以上)して起こす中枢神経障害です。したがって直射日光は間接的な誘因にはなっても、直射日光だけで日射病(熱中症)を起こすことはありません。

旧日本陸軍の行軍病提要には、「日射病は太陽の直射に因る頭蓋内容過熱に起因して発生し、熱射病は太陽直射の有無に関せず筋労と体温うつ積に因りて起こる病気を意味す。軍隊に多発

する此等の疾患は、夏季の行軍演習等に最も著明なるが故に、両者を発し易き因子は之れを同時に考慮すべく、且其症状相錯綜せるを以て判然と両者を区別すること困難とす。

即ち両者を総称して「喝病」と称し来たれり」と記載されており、更に軍陣衛生学教程には「喝病発生の主因は日光の直射に係せず、高気温の影響と過度の筋労作とに関わる身体の過熱にあり」と一層明確に記しています。

旧日本陸軍が喝病と呼称したのが現在の熱中症です。なお直射日光を浴びていて熱中症を起す一般的な日射病と呼びますが、その病因は直射日光の直接作用でなく全身性のうつ熱にあることを知ることは、予防にも治療にも極めて大切なことです。

## 熱中症の分類と症状

熱中症は全身性のうつ熱状態

## 熱中症(暑熱障害)について

### 高温多湿環境下の体温調節不全

サナモア光線協会  
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

を起す条件さえ整えば、帽子で直射日光を遮っても、直射日光とは関係のない夜間や屋内でも発生します。したがって旧日本陸軍では夜間行軍訓練中に、

発行所

〒153 東京都目黒区目黒 4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行

会費年500円

電話 東京(03)

3793-5281

3712-5322

主に体内の水分が不足する熱疲労、塩分が足りなくなる熱虚脱など、循環障害が顕著な熱虚脱などに分類されます。症状としては、頭痛、悪心、めまい、筋肉痛などで始まり、極端な場合は血液容量が不足して循環不全を起こし、血圧が低下し、意識喪失、ショック状態に陥り、生命が危険にさらされることもあります。それ故、何よりも予防が肝要ですが、発症した場合の救命には早期発見・早期治療が求められます。

## 最大の危険因子は脱水症

熱中症は、前述したように、高温多湿環境下で体温調節機能が働かなくなっ

熱中症を防ぐには

以前と比べ、夏になると熱中症でばたばたと倒れる、という話をよく見聞きするようになりましたが、これを防ぐには、①身体を暑さに馴化させる、②水分と一緒に必ず塩分を補給する、③暑熱環境での運動は限度を決め、途中で休憩をとり、決して過度にならないようにする、④炎天下では帽子をかぶり着衣に気を配る、⑤熱中症の疑いがある場合は日陰の涼しいところに寝かせ水を身体にかけ体温の低下を図るが、可及的速やかに病院に移送する、ことなどに配慮が必要です。

夏季臨時休業のお知らせ

八月十三日(火)から十五日(木)まで臨時休業致しますので、よろしくお願い申し上げます。

(株)東京光線療法研究所



脱衣場

宇都宮義真撮影



## 海に山に

夏期休暇には、費用と時間を惜しまずに、海に山に行きましよう。そこで清浄な太陽光線を全身に浴び、新鮮な空気を呼吸して、疲れた身体をリフレッシュしましょう。

大自然のふところに抱かれて、夏の太陽光線を十分に浴びれば、健康を増進し、疾病の予防、治療に如何に偉大な価値があるか疑う余地はありません。それ故に医者も最後の手段として、患者に転地療養を勧めるのです。

### 冷房は身体を弱くする

この頃(昭和38年頃のこと)では、日本の夏は蒸し暑く過ごしにくいので冷房が段々と普及し、快適に暮らせるようになりました。そのため日本の夏の氣候風土に順応できない虚弱な日本人が増加する傾向が見受けられます。乗り物の発達が人々の足を弱くしたように、あるいは暖房が人々の寒さに耐える能力を低下させたように、冷房は暑さに順応する皮膚や自律神経の機能を次第に衰えさせますので暑さに対する抵抗力が弱くなり、熱射病にかかりやすくなります。また風邪を引きやすくなります。病、リウマチ、関節痛、神経痛などを悪化させます。

人類は100℃になんなんとする温度差のある地球に適応して生きていかなければなりませんので、暖房だけでなく、冷房も時と場所によっては必要なことをあながち否定できませんが、暖房に比べ冷房は身体を弱くします。それ故、暑さに耐える能力を鍛えて暑さが苦にならない強い身体を造ることが重要です。それには夏には屋外に出て、気持ちの良い汗をかくてください。

### サングラスは眼を弱くする

夏の海や山のまばゆい日差しの下では、眼を保護するためにもサングラスをかけなければならぬと思ひ込んでいる人がいますが、光線が身体の健康に欠くことの出来ないものであるのと同様に、まばゆい光線を直接眼に受けることは眼の抵抗力を高め、いろいろな眼の病気にかかることを防ぐために非常に大切な要件です。したがって眼の病気の無い健康な人は、光線で眼を鍛えるようにすべきで、わざわざサングラスを使うのはむしろ有害無益と言わねばなりません。

められてしまいますので、原則として使うべきではありません。ただし現に眼に炎症性の病気の有る人では、眼に直接光線を受けると眩しくて眼を開いていられないので、眩しさを防ぐため眼鏡を用いることもあります。このような症例にも治療のために光線療法(紫外線療法)を行うこともあるほどで、光線そのもの

## 海に山に

宇都宮 義真

### サナモアは

### 我が家の太陽

夏期休暇に海や山に行こう、と思っても、仕事の関係やそれぞれの事情で動くに動けない人もいます。休暇に海や山に行っ

たものの、天候に恵まれずに曇天や雨天が続くこともあります。都会地や工場地帯では何時も塵埃が天日を隠してしまっています。地方によっては年間を通して日照時間が短く太陽の恩恵に浴せません。このようにさまざまな事由で光線を浴びないしていると健康を損ないます。

日光浴に理解の深い欧州ならではのことも知れませんが、フランスのリベラに設けられた光線医学研究所のソラリウム(光線浴室)の三階部分は太陽に向かって回転するように造られているそうです。またイタリアのマルセリズの向日回転式住宅は二階建の全部が太陽に向かって回転するようになっていてのことです。わが国にもこのような建物が生まれることを期待したいものです。

サナモアは光線を浴びる機会に恵まれない人々の健康を守り活力を与える、わが家の人工太陽です。

「光と熱」

昭和12年6月25日発行

海に山に

昭和12年10月1日発行

紫外線は眼に有害か

「健康と光線」

昭和38年8月5日発行

冷暖房は体を弱くするーを要約した。



## 献身の人生

春日市 育美健康光線療研

山崎 いく子

母、前田ミサが四月八日午前四時十分にて逝去致しました。母は三月二十六日で八十歳を迎えたばかりでした。

父が平成二年二月二十六日に脳出血で倒れてからというものの、生来の性格から責任を一身に感じてずっと父の介護に明け暮れておりました。八十七歳で体重七十六キロの父は左半身マヒでその父の介護は四十キロたらずの母にとって並み大抵のものでありませんでした。子供の私達には甘えませんが母には甘え



### 前田ミサ先生ご逝去

育美健康光線療研代表 前田ミサ先生が平成八年四月八日に永眠されました。先生には長年にわたり光線療法の普及に尽瘁され、本紙に治験例報告や多くの文書を寄稿して戴きました。本当に有難うございました。

この度、先生の後継者で愛娘の山崎いく子先生が、「母の思い出」を寄せてくださいましたので、社団法人福岡県療術師会会長 平子勝利氏の弔辞と併せて掲載します。お別れに当たり、言葉に尽くせない恩義を賜りましたことに衷心よりお礼申し上げますとともに、ご冥福を心からお祈り申し上げます。どうか安らかに眠りください。

(宇都宮 光明)

てばかりで、分別のつかない父には母のつらさなどわからないようで、そばにいる私達ははがゆいばかりでした。しかし母は父のいいなりで、朝、昼、晩、夜中関係なく介護していました。そしてついに自分の身体がぼろぼろになるまで介護をし、そしてこんなにも早く命尽きてしまいました。

母は私を生んで、その後無理をし、産後のひだちが悪くて右半身不随になりました。その頃、長崎医大にかかっていたそうですがなかなか治らず、どなたかのキッカケで光線療法を知り、その治療で半身不随が治ったそうです。それからというもの自分の進む道を光線療法と決め、

亡くなるまで四十数年間にわたる、この道一筋に精一杯やってきました。患者様方とは心と心のつながりでひろがっております。

母が師とおおぐ今は亡き宇都宮義真先生のモットーとされる、「誰でも治せる病人を十人治すよりも、誰も治せない病人を一人でもいから治しなさい」というそのお言葉を母もいつも心のささえとして、患者様方と四十数年接してきました。そしてついにとうとう自分が父の介護に力尽きてしまい、二月一日に入院致しました。父を残してまさか自分が先に逝くなどとは思っていませんでした。必ずよくくなって退院したいと入院

生活をじっとがまんして頑張っていました。あまりにも早いあの世への旅立ちだったと思います。

母の人生は社会と家族への献身の人生だったと思います。私は母が生涯をかけて築きあげた光線療法という仕事を、母の心をひきつい継承していきたくと思っています。心と心のつながりで患者様方と接してきたいと思っています。又、母もそれを心から望んでいると思います。どうぞ皆様、今後共何卒よろしくお願い申し上げます。

## 弔辞

社団法人福岡県療術師会

会長 平子 勝利

前田ミサ先生、とお呼びしても、もう御返事を聞けなくなりまして。こんなに早くお別れの日が訪れるとは夢にも思いませんでした(中略)。

今年二月、御主人様の看護の折り胸椎圧迫骨折のため下半身麻痺の状態となられ、白十字病院に入院され絶対安静の病状となられました。四月八日午前

四時十分、お別れの日が訪れました。余りにも早い急なお別れに、御一家様のお嘆きもさぞかしとお悔やみ申し上げます。

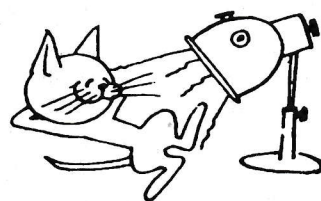
先生は昭和二十九年に福岡県へ入会され、その後理事から常任理事として永年にわたり役職につかれ、会の運営と発展に寄与され、サナモア光線療法のリーダーとして会員の学技の向上に尽くされ、厚生部長としての職務も親身になって努力していただきました。これ等の功績に依り、先年福岡県公衆衛生協会理事長の表彰を受賞されました。福療会としてもその功績を讃え厚く御礼申し上げます(中略)。

七年前に御主人様が脳出血にて倒れられ看病に努められていましたが、病床の御主人様を残して先生が先に旅立たれるとは残念でなりません。先生の後は、山崎いく子様が治療業務を継いで行かれますので、安心して安らかに眠り下さい。

想い出や申し上げたい事は沢山ありますが、これを以てお別れの言葉にかえさせて戴きます。さようなら、さようなら。

平成八年四月十日





## ☆視神経炎

症例 45歳 男性 会社員

症状 急に目がかすみ偏頭痛が起き気分が悪くなった。仕事で残業が続いていたので過労と思いが、翌日に帰宅し早めに床に就いたが、翌日になって目の奥が痛み、周りが見えるが視野の中央が見えないため、不安になって眼科医を訪れ、視神経炎と診断された。

医師から薬物療法で効果があれば一、二ヶ月で視力は改善するが、長い場合は二、三年かかると言われた。それから二ヶ月程投薬を受け治療が続けたが、一向に良くなる兆候がなく、義姉からウエノ光線を訪ねて相談するように勧められた。

義姉は三十年来サナモアを愛用していて、目の病気で、主人の緑内障、自分自身の急激な

## — 治 験 例 報 告 —

視力低下、次男のテニスボールによる眼球打撲がそれぞれ良くなった体験から、卓抜な効果を確信していた。筆者も昭和十六年以来、同様な効果を経験している。

療法経過 治療に入る前に、目に直接光線を照射しても支障はないのかと尋ねてくる。光線一眼球―視神経―脳とつながる複雑かつ絶妙な作用によって物を見ることが出来ることを説明し、眼底とその奥に光線を吸収させる作用させるため、閉眼して目にかかるとともに後頭部に照射する必要があることを強調しておく。

BDカーボンで目10分、後頭部10分、腹10分、腰10分、ABカーボンで膝10分、足裏20分照射。二日目から目と後頭部は各20分照射することにした。四日目には頭痛、眼痛が殆ど消え気分も良くなる。三回の治

## ☆とこずれ (褥瘡)

症例 87歳 男性

(症例は報告者の父親)

症状 平成二年二月に脳出血で左半身麻痺。現在は在宅介護。体重75kg。

麻痺のため寝がえりがうまく出来ず、どうしても麻痺のある左を下にして寝るため、体重のせいもあって骨の突出した左腰

療のあと自宅での治療にしたが、右上腹部にBDカーボンで10分追加して照射するように指示し、併せて過労に気をつけ体調を整え体力をつけるために全身照射を忘れないよう注意した。二週間過ぎには中央の暗点が少しずつ小さくなり、回復に向かって経過は順調である。

神戸市 ウエノ光線療研  
上野 健太郎氏報告  
TEL078-1332-1358

## ☆漏斗胸

(ネフロローゼ症候群)

症例 23歳 男性

症状 ネフロローゼ症候群の治療中に、先天性に胸骨下部・剣状突起が高度に陥没する漏斗胸の手術を勧められたが、手術をしたくないので光線で治療したいと所求された。

部(左腸骨部)と左大腿上部外側(左大転子部)に褥瘡ができ、化膿して悪臭があった。しかし麻痺側のため痛みはあまり訴えない。

療法経過 BCカーボンで、患部に全開で60分、一号集光器を使い30分照射した。外に基本照射をしたかったが、体重75kgが眠ってしまったと体位を変えようにもビクともしないので、やむを得ず患部照射しかしないこと

## サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともども愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセッとしたり、サナモアABCDと効果が同じという根拠も無いような文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので、どうかご注意ください。

(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標「B」のマークが必ずついています。)

東京光線療法研究所

初診時、漏斗胸の変形が高度で胸を圧迫するため、息苦しさを感じていた。また胸や下肢だけでなく全身が異常に毛深く、頻尿、倦怠感、脱力感、疲労感、風邪を引き易いなどネフロローゼ症候群の治療薬(ステロイド剤)の副作用と思われる症状を認めた。

患者に漏斗胸の治療は未経験なことを話し、ネフロローゼ症候

もあった。

前記の要領で約一週間照射し治療したが、移動入浴をしてくれる市の係の人が、あまりに治りが早いのにびっくりしていた。今は褥瘡を予防するため、週に二、三回、AC、AB、Bなどで一時間ずつ照射している。

春日市 育美健康光線療研  
山崎 いく子氏報告  
TEL092-1581-2039

群の治療をしながら経過を追うことを了解してもらい治療することにした。

療法経過 治療はAB、AD、BDカーボンを適宜使用し、側臥位で、腰10分、顔5分、膝5分、腹10分、足裏10分、後頭部5分、仰臥位で左右肩5分、左右腹5分、左右膝5分照射した。治療を始めて六ヶ月経って、漏斗胸には著変はなかったが、一般症状は著しく改善し仕事に復帰した。その後も自宅で治療を続け、三年六ヶ月後に来所した際、胸が平らになったと言うので、病院で検査を受けるように指示した。その結果、手術の必要はないと言われた。貴重な体験をさせてもらった症例である。

川崎市 東京光線治療院  
海渡 一二三氏報告  
TEL044-721-5067



忘れてはならない

## 自然の摂理

人類は自ら創造した文明によって、さまざまな利便を享受しています。しかし一方で人類は生命の存続に不可欠な自然環境を破壊し、生態系に深刻な影響を及ぼしました。

## 文明が原因の文明病

サナモア光線協会

医学博士

宇都宮 光明

# ビタミンD欠乏症と過剰症について

## 文明が原因の文明病

なりました。光生物学で言えば、太陽のように生態系に欠くことの出来ないもので、むしろ紫外線の皮膚に及ぼす作用を許し、紫外線を浴びてはいけな

意外性もあって耳新しく聞こえますし、専門家もどきの人が言え、これこそ最新の知識として独り歩きを始めます。

思い返せば紫外線が主に女性の間で悪者扱いされるようになったのは、かれこれ10年程前に化粧品会社が日やけ止め効果をうたった紫外線(UV)カット化粧品を売り始めてからです。この商品の大きな広告宣伝の中心で、紫外線は肌に悪影響がある、としきりに強調されたため、紫外線カットと言えは売れると考えた他業種の業者も参入し、紫外線カット商品が氾濫するようになったのです。しかし誰が何を言おうと、あらゆる生命は太陽の恩恵なしに生きられない、という自然の摂理をねじ曲げることは不可能です。

食べ物で摂ることが難しいビタミンDで言えば、紫外線を浴びさえすればたやすく補えます。これが生命を誕生させた自然の摂理なのに、最近では毎年紫外線が強まる時期になると、紫外線を浴びたら危険という宣伝文句を聞かされるのですから迷ってしまいます。筆者は金も力もありませんが、巨大な産業の販売戦略の中では、自然の摂理も人の健康も度外視した横車がまかり通る、と諦めることだけはしたくありません。しかし残念なことに、今では可成りの人々が紫外線有害説を信じています。現

に紫外線を浴びないようにして、色白と言われるのを褒め言葉と単純に喜んでいる女性を見受けますが、紫外線から逃げ回っているうちに実はもっと大切な自身の健康を損なっていることに気付こうとしません。繰り返しの強調しますが、自然界にあるものは人知を越えてはるかに完璧であり、間違っても有害無益なものなどあるはずがないのです。前置きが長くなりましたが、ビタミンDに関する異常は文明病であることに主眼をおいて、自然の摂理について考える参考にしていただければ幸いです。

## 脂溶性ビタミンと過剰症

ビタミンとは、体内で合成されないため食品から摂取する必要がある栄養素で、触媒としてごく少量で生体反応に関与しますが、ビタミンB群やビタミンCのように水に溶ける水溶性ビタミンと、ビタミンAやビタミンDのように脂に溶ける脂溶性ビタミンに分けます。このうち水溶性ビタミンを薬で大量に投与(ビタミン大量療法)しても、腎臓で濾過されて排泄されるため、重大な副作用はないとされています。重大な副作用はないとされていますが、脂溶性ビタミンを薬で大量に投与すると、肝臓や脂肪組織に蓄積され過剰症(中毒症)を起こします。しかし自然の摂理にしたがえば過剰症はありません。このうちビタミン

D過剰症については後述します。ビタミンA過剰症を防いでいる自然の仕組みに触れておきます。

緑黄色野菜や人参は身体に良い、という話を聞かれたと思います。それは必要に応じて必要なだけビタミンAに変換するカロチンが、緑黄色野菜や人参に淡い色をした野菜に比べて多く含まれているためです。すなわちカロチンで摂取すれば、ビタミンA欠乏症はもとより過剰症を気遣う必要もありません。これに対しビタミンAを薬で大量に摂れば、ビタミンA過剰症を起し、頭痛、吐き気、めまいなどの脳圧亢進症状、不眠、神経興奮など刺激性亢進に伴う症状、肝腫大、四肢痛などを起こします。なおカロチンを含め、野菜や果物の色艶を決める色素は紫外線の作用で合成されます。したがってビタミンAの病的状態を未然に防ぐのも太陽なのです。

## ビタミンD欠乏症

ビタミンD欠乏症は、今世紀の初頭にクル病の原因として発見されました。クル病を最初に記載したのは、一六四五年のオランダのダニエルウィスラーと言われますが、紫外線が体内でビタミンDを生合成してクル病を防ぐという摂理が自然にあることに気付かなかつたため、不治の病と恐れられ、原因を特定する



## (五ページよりつづく)

化を促します。このようにビタミンDはカルシウム代謝を調節するホルモンとして必須の役割をはたしています。

ビタミンDは外にもさまざまな生理機能に関わっており、必要な役割をはたしていることが明らかにされていますが、乳児以外では光線を浴びることの意義は殆ど無視されている、と言っても過言ではありません。そのため特に屋内を主な生活の場とする高齢者でビタミンD欠乏症が多発しており、その結果、骨粗鬆症だけでなく、抵抗力の低下、成人病やアレルギー疾患など慢性疾患の原因になっています。

## ビタミンD過剰症

ビタミンD過剰症の原因は、ウィンドウズがビタミンDの合成に成功(ノーベル化学賞受賞)し、薬としてビタミンD剤が過剰投与されたためです。無論、紫外線をいくら浴びてもビタミンD過剰症は起こしません。また母乳ですらビタミンDを含まないことでも分かるように、食品にはビタミンD過剰症を起こすほどビタミンDは含まれていません。このように自然にはビタミンD過剰症を起こさない仕組みの妙が備わっています。

ビタミンD過剰症を起こすと、腸管からのカルシウム吸収の亢進、骨からのカルシウム動員の

促進が起り、血清カルシウム値が上昇し高カルシウム血症を起こします。その結果、腎、脳、大血管を含む全身の軟部組織に異所性石灰沈着を起こし、全身倦怠感、食欲不振、嘔吐、下痢あるいは便秘、血圧上昇、不整脈、体重減少、不明熱、多飲多尿、尿路結石、急性腎不全、尿毒症、頭痛、見当識障害、傾眠、昏睡など多臓器障害による極めて多彩な症状を呈します。また骨では長管骨の骨端部では石灰沈着を認めますが、骨幹部では却って脱灰し粗鬆化します。

それ故、ビタミンD剤の使用は、ビタミンD欠乏症が明らかの場合とか、腎不全のため活性型ビタミンDが生成されない場合とか、いづれにせよ医師の管理下で行うべきであって、健康人が保健のため使うことは厳に避けなければなりません。

## 文明の得失

自然の恩恵は、自然に則した暮らしをすれば等しく与えられます。したがって文明発祥以前には、ビタミンDに関する異常はあり得なかったのです。文明が清浄な光線を浴びる機会を遠ざけたためビタミンD欠乏症を起こし、ビタミンDを薬で大量に与えたためビタミンD過剰症を起こしたのです。したがって文明病であることは明白です。反面、ビタミンDに関する知

識を授けてくれたのも文明です。肝要なのは自然の摂理を知り、その恩恵に浴しながら、知識を生かすことです。この点について筆者の主張を要約すれば、①日光浴の必要性を再認識する。小麦色に日焼けした肌は健康の象徴である。これは皮膚に色素沈着を起こす紫外線が同時にビタミンDを生成する自然の摂理を理解すれば当然のことである。

## ②自然環境を破壊しない。

塵埃による大気汚染、主にフロンガスによるオゾン層の破壊など、太陽の恵みを受けるために改善しなければならぬ問題は山積している。

## ③カルシウム摂取量

ビタミンDがカルシウム代謝に深く関わっていることは既述したが、カルシウムを不足なく摂ることは極めて大切である。ちなみに健康食品の人気ナンバーワンはカルシウム錠と言われるが、カルシウムは錠剤でなく自然食品で摂ることが望ましい。

④薬としてのビタミンDについて。最近、カルシウムとビタミンDと一緒に添加した食品の広告を見掛けたが、ビタミンD含有量の不確かなものを信じてはならない。前述したように薬でビタミンDを使用するのは医師の管理下で病気の場に限るべきである。

サナモア



サナモア光線協会

趣意書

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線は、私たちに限りない恩恵を与えています。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従つて、目に見える可視光線だけでなく、目には見えないが無くてはならない紫外線や赤外線を目的に応じて適切に放射しなければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL (03) 三七九三—五二八一

(本紙の無断転用を禁止します。)